

◇ 国 語

国 3-1～国 3-15 まで 15 ページあります。

第一問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

「カン」は熟達者の真髄であると言ってもよい。将棋、囲碁の熟達者の直観はその発展形といえる。一手一手で最善の手を考え、それを積み重ねていく。次の一手についても、勝負を決める最終的な形についても正解はない。しかし、プロの棋士はこれから向かおうとする形について直観的に視ることができ、次の一手も直観によって無数のセンタクシ[↑]から候補を絞り込むことができるのである。

将棋や囲碁では熟達者の「直観」の働き方は二種類ある。全体の終着点についての直観と、次の手についての直観である。多くのタイトルを持つプロ棋士の羽生善治さんは著書『大局観』で前者を「ひらめき」、後者を「直観」と呼び分けている。これは非常に示唆^aに富む洞察である。

物理の熟達者も、問題を見た瞬間に答えがでないうちから解決の到達点が見え、そこから具体的に手続きを進めていく。人が複雑な問題解決をするときには、その時々、その場その場でのポイントの判断だけではなく、事態がまだ解決から遠く、フメイリヨウ^bな段階でも、最終的にどこに向かうのかというような直観が非常に大事なのである。しかし、熟達しないうちは、その時その場でのア[□]選択しか思い浮かべることができない。

羽生さんによれば、「大局観^c」とは様々な手を深く読まなくてもそのときの状況とその後の流れを一瞬見ただけで判断する直観で、経験を積みれば積むほどセイド^cが上がってくるものだそうだ。がむしやりに読み込む力は若いうちのほうが強いが、熟年になるほど「大局観」が育っていくと書いている。「大局観」を言いかえれば、問題を大づかみに捉えて、ゴールが見えない局面でも目指す到達点をイメージできる直観である。熟達とは、将棋に限らずどのような分野でも、この直観を育てていく過程と云ってもよい。

「直観」が働くためには、膨大な量の過去の経験の記憶があり、それが必要な時に適切に取り出せることが必要だ。記憶の達人がしていることが、まさにそれだ。熟達者が瞠目^dすべき記憶力を持つことは、すべての分野に共通する。イ[□]、その

すぐれた記憶は、その分野で意味がある情報の記憶に限られている。

すぐれたバスケットボールの選手にバスケットボールのゲームの一場面のスライドを見せていき、記憶のテストをした研究がある。バスケットボールは対戦する二つのチームの選手の位置関係が戦略上、非常に重要なゲームである。すぐれたバスケットボールの選手は非熟達者に比べ、ゲーム場面のスライドを短時間見ただけで選手のコート上の布陣を正確に記憶することができた。しかし、このすぐれた記憶は見せられた布陣が戦略上、意味のある構造をもっている場合に限られた。適当に人を配置しただけの意味のない布陣を見せられた場合は、彼らの記憶は普通の人と変わらなかったのである。

バレエダンサーの振り付けの記憶についても興味深い研究がある。この研究では熟達者と初心者に複雑なシークエンスからなる振り付けを教え、実験参加者にそれを再現させた。半分のシークエンスは振付師がつくったクラシックバレエのパターンをもとにした構造をもったシークエンスで、後の半分は実験者が適当につくった構造のないシークエンスだった。また、研究に参加した人の半分はクラシックバレエのダンサーで、もう半分はモダンバレエのダンサーだった。

クラシックバレエのダンサーの場合は、クラシックバレエの構造をもったシークエンスの時には、なんとなくシークエンスを記憶した。しかし、ランダムなシークエンスを提示された場合には初心者と記憶成績が変わらなかった。ウ、モダンバレエのダンサーの場合には、構造のあるシークエンスでも構造のないシークエンスでも、初心者よりすぐれた記憶を見せた。これは、クラシックバレエでは型が重要で型から外れた動きというのはめつたにないのに比べ、モダンバレエにおいては決まった型以外のシークエンスもよく使われることがあるということを反映していると思われる。

このように、人は、熟達の過程で、その分野で重要な情報を非常に短い時間でエ記憶する術すべを身につける。しかし、熟達者のすぐれた記憶の本質は、「その場の情報をそのまま記憶する力」ではなく、持っている知識によって状況が認識できる「認識力」にあるのである。

認識力は「識別力」でもある。熟達者は、普通の人にはわからない違いがわかる。初生雛鑑別師という職業がある。この職業は、鶏のヒナの性別を区別する仕事だ。鳥の生殖器官は体内に位置するので、普通は外側から見てもわからない。プロの鑑別

師は、まずヒナの肛門をわずかに開ける技術を習得した上で、ヒナの生殖器官のシユウの違いにより、どれがオスでどれがメスなのかの区別をする。

オ

書くと簡単そうに思えるが、パターンのほんのわずかな違いから見分けをする非常に熟練を要する職業で、一人前のプロになるのには何年もかかるそうである。

熟達者は普通の人には見えないパターンの違いがわかり、見極めができる。熟練したバードウォッチャーは、高い木の枝にいる様々な種類の鳥を一瞬見ただけですぐに見分けられる。ドッグブリーダーは同じ種類のイヌの個体を、サルサルの飼育者や研究者は群れの中のたくさんのサルサルのそれぞれの個体を見分けることができる。

このような識別力の延長にある熟達者の認知能力は「審美眼」だろう。熟達者は普通の人にはわからないほどの厳しく細やかな基準で、出来栄えのよし悪しが判断できる。一流の美術家は、普通の人間にはどれも素晴らしく見える焼きあがった作品の多多くを壊してしまうという話をよく聞く。一流の熟達者は普通の人にはトウテイ見分けられないレベルで、出来栄えのよい、悪いを判断できる。最高のものとそうでないものを見分ける審美眼が、一流のパフォーマンスを支えているのである。

（今井むつみ『学びとは何か——〈探究人〉になるために』による）

問一 傍線部A・B・C・D・Eと同じ漢字を含むものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

A センタクシ

- ①前方をチヨクシする
- ②シサンを投じる
- ③カンゴシの仕事をする
- ④すらりとしたシシである
- ⑤問題をシテキする

1

B フメイリヨウ

- ①会社のドウリヨウと会う
- ②一目リヨウゼンである
- ③ドリヨウが大きい人
- ④代金はソウリヨウを含む
- ⑤他国のリヨウチを侵す

2

C セイド

- ①セイミツに検査する
- ②体をセイケツにする
- ③セイリョクを拡大する
- ④アンゼンセイが高い
- ⑤規則をセイテイする

3

D シユウ

- ①保険のカンユウをする
- ②エンユウ会に出席する
- ③海外にユウヒする
- ④ユウジュウ不断な男である
- ⑤キンユウ政策を緩和する

4

E トウテイ

- ①トウメンの課題である
- ②意志をトウイツする
- ③前例をトウシユウする
- ④他をアットウする
- ⑤シユウトウに準備する

5

問二 空欄 ア・イ・ウ・エ・オ に入る最も適当なものを、次の各群の①～⑤の中

からそれぞれ一つずつ選べ。

ア

- ① 表面的な
- ② 局所的な
- ③ 普遍的な
- ④ 一方的な
- ⑤ 恒常的な

6

イ

- ① それでも
- ② したがって
- ③ いわば
- ④ しかし
- ⑤ そのうえ

7

ウ

- ① 一方で
- ② 同様に
- ③ もちろん
- ④ とは言え
- ⑤ それに対し

8

エ

- ① 効果的に
- ② 結果的に
- ③ 本質的に
- ④ 部分的に
- ⑤ 科学的に

9

オ

- ① ところが
- ② あらためて
- ③ このように
- ④ あるいは
- ⑤ ここまで

10

問三 傍線部 (a)・(b) の意味として最も適当なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選ぶ。

(a) 示唆

- ① 本題とは関係のない話をしながら相手を説得すること
- ② 将来への指針を示し与えること
- ③ 気づかなかったヒントをそれとなく気づかせ導くこと
- ④ 口にだしては言わず態度で示すこと
- ⑤ 多くの例え話を紹介して相手を説き伏せること

11

(b) 瞠目

- ① 強い関心を持って見ること
- ② 世間の注目を集めること
- ③ 口に出して言わず目で訴えること
- ④ 驚いて目を見張ること
- ⑤ 誰も真似することが出来ないこと

12

問四 傍線部 (二) 「大局観」の説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選ぶ。

- ① 将棋や囲碁の世界で、目の前の一手一手で最善の手を考えること
- ② 物事を一面的でなく、多面的に捉えること
- ③ 将棋や囲碁の世界で、様々な手を深く読んで状況を判断すること
- ④ 事物の裏側の局面を注意深く観察すること
- ⑤ 問題を大きく捉えて、ゴールが見えない局面でも目指す到達点をイメージできる直観のこと

13

問五 傍線部（二）「認識力は『識別力』でもある」の説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

- ① 熟達者は一般人には理解できない審美眼を持っている。
- ② 熟達者はその分野で主要な情報を短時間で記憶する能力を持っている。
- ③ 熟達者は普通の人には見えないパターンの違いがわかり、見極めができる。
- ④ 熟練したバードウォッチャーは、高い木の枝にいる様々な種類の鳥を一瞬で見分けることができる。
- ⑤ 物事を認識する力を養うためには審美眼が必要である。

14

問六 この文章に付ける題名として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

- ① 審美眼を養うことについて
- ② 記憶力と認識力について
- ③ パターンの識別について
- ④ ひらめきの構造について
- ⑤ 熟達者と直観について

15

第二問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

「確かな個人」をつくりだすというのは、戦後日本社会の大きな課題であった。政治学を中心とする戦後の日本の社会科学に課せられたほとんど唯一の課題がまさにこの一点に向けられていたといってもカゴン^Aではないように思われる。

ア はこれを、自由や民主主義的な制度をどう運営するか、といった論点として論じ、また実際、**ア** は、西欧の政治理念や政治制度をモデルとして、それから学ぶといういわゆる進歩主義の姿勢をノウコウ^Bにもっていた。

イ は、自由な個人の集まりである市場がいかに合理的なものであるかを論じた。その背後には、封建的経済や絶対主義的な重商主義よりも、市場経済は一層進んだものであり、それは自由や民主主義とも適合することが論じられた。

ウ は、農村的共同社会から都市型の市民社会への移行がいかに人間の解放であるかを強調してきた。^Cゲマインシャフトからゲゼルシャフトへの移行といってもよいだろう。自立した個人からなる契約の社会への移行が近代化だと論じたのである。

こうした議論を支えてきたのは、近代社会は「確かな個人」から成り立つという発想である。

だがここでいわれてきた「確かな個人」とは一体何なのであるか。こう問うと答えはすぐには出てこない。だから、官僚政治から脱却すれば、あるいはは共同体や集団主義から脱出すれば、「確かな個人」があらわれ出てくるとつい考えてしまう。しかし、少なくともヨーロッパ的な意味での個人主義というものは、タンテキ^Cにいつて日本には存在しない。

当然ながら、この「確かな個人」をつくりだそうという戦後日本の理想は、結局、実現されたとはいえないがたいし、また、近年の市民主義の掛け声ぐらいでは実現もしないだろう。もしその実現を待望するなら、それは永遠に待望される理想だといえるべきであろう。ヨーロッパの歴史の文脈から「近代社会」という理念だけを抜きだし、そこに、「確固たる個人」という理念を見だし、それを、わが国に当てはめようとしてもやはり無理がある。ヨーロッパ社会は、別に意図したわけではない、われわれが「個人主義」と呼び習わすものを生み出した。そのことが幸福であったのか不幸であったのか本当のところはわからないのである。

しかも、ヨーロッパ社会は、一方で個人主義を生みだすとともに、他方では、彼らのもうひとつの伝統である「共同体主義」

もちろんと残しているのだ。「個人主義」に対する「共同体主義」は、時には、国家という共同社会への強い愛着、時には民族への激しい「エ」、そして、多くの場合には、もっとゆるやかな形で、地方生活や家族や教会や近隣や知人との「オ」という形をとる。個人の内面に超越的な価値をもった、ある意味で激しい「個人主義」と、より生活の形と密着した「共同体主義」の両者が何とかバランスを崩さないで、他方を牽制するところにヨーロッパの「市民」がある。

戦後日本の知識人は、「市民」を民主主義の担い手として定義し、その民主主義は、官僚政治や保守政治という「密室政治」に対するものだとした。市民は、国家権力に対して、個人の権利をまずは主張し、それを政治的正義にまで高めて、権力と対峙するものとされた。ここにいわば「期待される市民像」が描かれたわけである。

このようなことが、戦後のある時期まで必要でもあり、またそれなりの有効性を発揮したことは認めよう。しかし、このような「市民」像は、どうしても、「私」の権利や利益から出発することになる。「私」の世界が、国家という権力に対比させられるからである。「私」の権利や利益を守りまた主張するのが、市民であり、これを政治の世界へもちこむのが民主主義ということになる。「市民」ではなく「私民」が民主主義の世界を闊歩し始める。「私」の権利や利益の主張は、その背後に、公共精神や責任の精神をもたなければ、単なる無責任や利益の食い合いとなつてゆく。国家や公共への責任を見失った、戦後の「市民」が民主主義を担うとすると、民主主義から腐敗臭が出てくるのもいたしかたのないところであろう。

本当は、民主主義が、少なくとも制度として、それなりに実現されるとともに、この種の「権力に抗する市民像」は意味をなさなくなるのである。なぜなら、民主主義とは、まさに民衆（市民）が権力を行使する政治キコウだからである。ここでは、「市民」は、国家権力に抵抗する主体ではなく、権力を行使する主体となつていのである。したがって、民主主義がりっぱな政治家を選出できないというのは、根本のところでは、「市民」の責任といわなければならない。

（佐伯啓思『「市民」とは誰か』による）

問一 傍線部A・B・C・Dと同じ漢字を含むものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

A カ|ゴ|ン

①カ|セツ住宅を建てる

②刑罰をカ|す

16

③カ|卜的な現象

④屋上屋をカ|す

⑤ツイカ|料金を払う

B ノウコ|ウ

①玉石コンコ|ウ

②ヤツコ|ウが現れる

17

③沈思モツコ|ウ

④コ|ウセイ物質

⑤コ|ウガン無恥

C タ|ンテ|キ

①タ|ンテ|イを雇う

②タ|ンシ|ョを開く

18

③タ|ンネ|ンに磨く

④タ|ンパ|クな味

⑤タ|ンサ|ンガス

D キコ|ウ

①大学のコ|ウギを受ける

②キンコ|ウを保つ

19

③コ|ウバ|イ意欲をそそる

④ケツコ|ウな出来ばえ

⑤道路のソツコ|ウ

問二 空欄

ア

イ

ウ

に入る最も適切な組み合わせを、①～④の中から一つ選べ。

ア

は

二カ所あるが、同じ語句が入る。

20

ア

イ

ウ

- ① 制度論 | 経営学 | 市民論
- ② 制度論 | 経済学 | 社会学
- ③ 政治学 | 経済学 | 社会学
- ④ 政治学 | 経営学 | 市民論

問三 空欄

エ

オ

に入る最も適当なものを、次の各群の①～④の中からそれぞれ一つずつ選べ。

エ

① 味方

② 関心

③ 攻撃

④ 忠誠

21

オ

① 社交

② 論争

③ 無関心

④ なれ合い

22

問四 傍線部 (a)・(b)・(c) の本文中の意味として最も適当なものを、次の各群の①～④の中からそれぞれ一つずつ選べ。

(a) ゲマインシヤフト

- ① 確かな個人からなる解放された社会
- ② 自立した個人からなる共同社会
- ③ 血縁を中心とした有機的社会
- ④ 利益を中心とした契約的社会

23

(b) 対峙する

- ① 主張を押し通す
- ② 向き合って対立する
- ③ 協力して援助する
- ④ 決着をつける

24

(c) 闊歩(する)

- ① 堂々と力強く歩く
- ② のんびりと大またで歩く
- ③ 人目を盗み足早に歩く
- ④ 大手を振って歩く

25

問五 傍線部(一)「答えはすぐには出てこない」のはなぜか。最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

26

①近代社会を成立させる「確かな個人」という発想自体が、ヨーロッパ社会の模倣であり、自らの内なる必要性から生じたものとは言えず、日本人の中で「確かな個人」の中味にまで考えが至らないから。

②日本の民主主義は未だ発展途上のものであり、日本人の大多数が合意するものとしての「確かな個人」が確定しておらず、今しばらくの期間が必要であるから。

③日本においては、国家権力や官僚主義といった、いわゆる「密室政治」を形作るものが、民主主義の根幹となる「確かな個人」の成立を抑制しており、中味についての議論がなされにくいから。

④民主主義における「確かな個人」という概念自体が、実現不可能な間違つたものであるにも関わらず、日本社会は「確かな個人」を作りだそうと、無反省に突っ走って来たから。

問六 傍線部(二)「永遠に待望される理想」の説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

27

①永遠に追求し続けるほど価値のある理想

②待望するのが間違っている無意味な理想

③待望し続けることで初めて実現する理想

④実現するのが非現実的なほど難しい理想

問七 傍線部(三)「期待される市民像」の説明として当てはまらないものを、次の①～④の中から一つ選べ。

- ①市民は、民主主義の一翼を担い、自らの責任に基づき行動することが期待される。
- ②市民は、基本的に個人の利益ではなく、公共の利益を優先する態度が期待される。
- ③市民は、個人の権利から主張を始め、それを政治的正義へと高めることが期待される。
- ④市民は、密室政治を排し、権力にあくまでも抵抗する力を持つことが期待される。

28

問八 傍線部(四)「民主主義から腐敗臭が出てくる」と筆者が考えるのはなぜか。最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

- ①民主主義にとって必要な二つの柱である、公共への義務と、個人の権利のうち、前者が欠落したまま、日本社会を担おうとすることから生じる矛盾が、見苦しいものとして筆者の目に映るから。
- ②民主主義の根幹に関わる個人の権利・利益の追求に際して、国家との摩擦が避けられず、結果として行き詰まった状態に陥ったまま先に進めない状況が、歯がゆいものとして筆者の目に映るから。
- ③戦後のある時期までは必要であった国家権力に対する抵抗に乗じて、一部の「市民」を名乗るものたちが、無責任に日本を食い物にしている現状が、腹立たしいものとして筆者の目に映るから。
- ④戦後の日本人が、西洋の民主主義の名を借り、民主主義とは相反する個人の権利の主張を、あたかも民主主義の唯一の要点であるかのごとく勘違いしている様が、不快なものとして筆者の目に映るから。

29

問九 この文章で筆者が述べている内容と合致しないものを、次の①～④の中から一つ選べ。

30

- ①ヨーロッパの歴史の中で熟成されてきた「個人主義」を、文化の違う日本にそのまま取り入れることは難しい。
- ②戦後の日本人の多くは、共同体や集団主義からの脱出が、民主主義を発展させるものと考えてきた。
- ③戦後、市民が国家に対して個人の権利を主張し、政治的正義にまで高めてきたことは、前向きに評価できる。
- ④戦後の日本では、「個人主義」と「集団主義」とは対立するものとされ、前者のみが追求されてきた。